

Jミルクが2022年7月29日に公表した「需給見通し(※2022年6月迄実績)」の予測値とその後の実績をグラフ化しています。

「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も毎月配信していきます。

発行：一般社団法人Jミルク生産流通グループ

《インバウンド増加に期待、一方で、さらなる物価高は続く～今後の不需要期に向けて需給対応が喫緊の課題～》

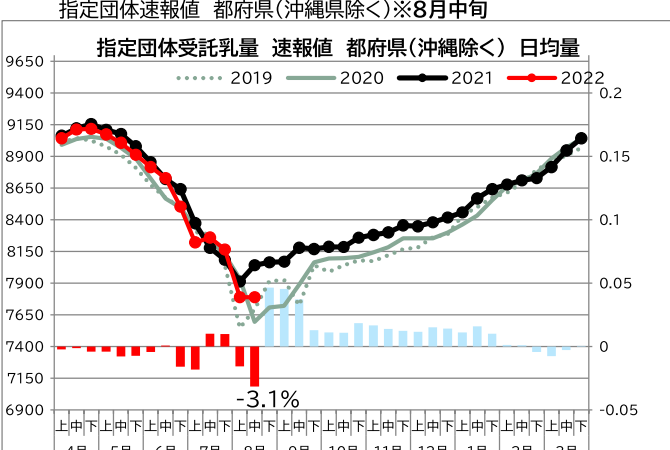
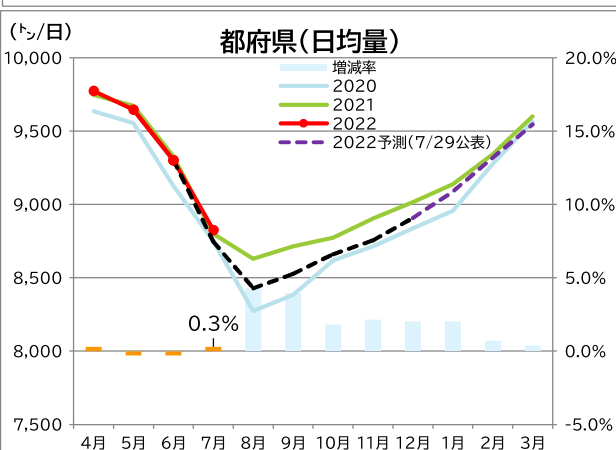
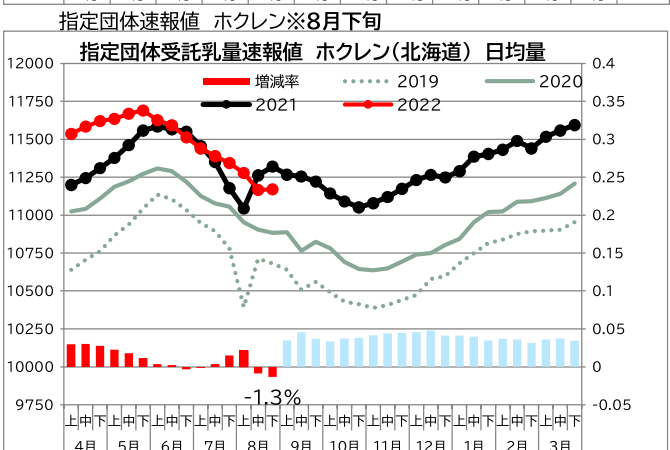
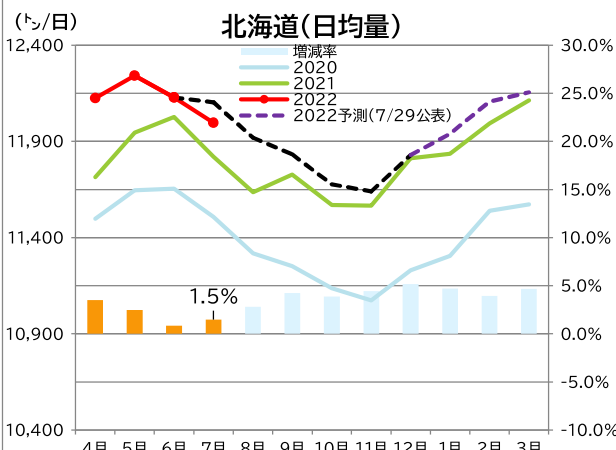
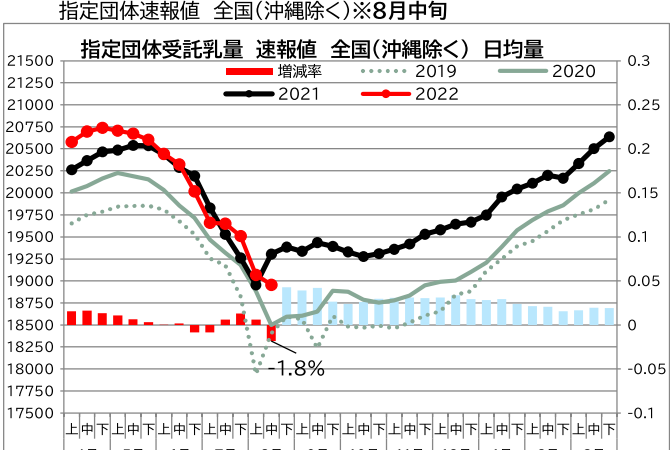
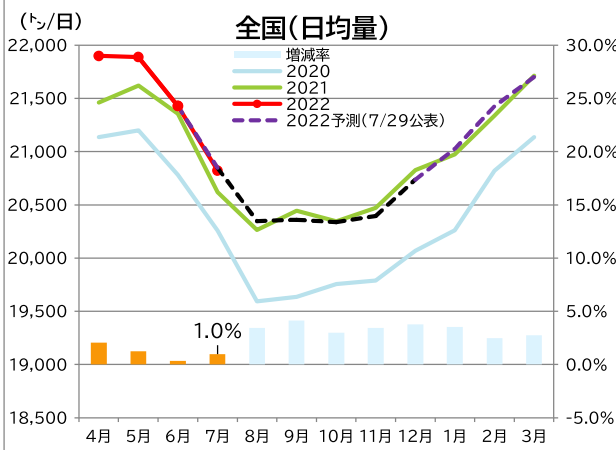
- 7月の需給状況について、都府県の生乳生産は年度当初から引き続き前年並みに推移、北海道は前年を上回ったことから、全国でも前年を上回る水準となった。一方、飲用等向は7月前半の猛暑の影響により需要が押し上げられ、前年を上回った。結果、乳製品向は前年比100.6%と前月までの伸び率が縮小し、うち脱脂粉乳・バターは仕向量も減少したことから脱粉・バター生産量が前月よりも減少した。脱粉・バターの推定出回り量が前年を上回る水準となっており、脱脂粉乳の在庫量は4か月ぶりに10万トンを下回り、バターは前年を下回ったものの、依然として両品目とも高い在庫水準が継続している。
- 8月の牛乳販売動向(インテージSRI+実績:前年比97.0%、Jミルク予測(牛乳業務用以外):101.7%)については、農水省の牛乳乳製品統計が高めとなる傾向があるものの、お盆以降の天候不順や気温の低下を踏まえると予測値水準並み～下振れしていると考えられる。
- 直近の動向について、生乳生産は北海道・都府県ともに8月中旬までは前年を下回る推移となっているものの下旬以降は生産量が戻っている可能性がある。一方で直近(8/29週)の牛乳類の販売個数は全品目通じて前年比95.0~100.0%の水準であり、販売個数は低調に推移している。8月月間では前年を下回っているが、業態別ではDRUGチェーンが前年比102.3%(前々年度比102.6%)となっている。ヨーグルト類は唯一ドリンクタイプは前年並みの水準となっているが、個食・大容量タイプは前年を下回っている。
- 24年振りの安値となる円相場水準と7日には入国者数の上限の緩和が報道されたことで、インバウンドの増加が期待される一方で、食料品、燃料、光熱費等のさらなる物価高は続くと考えられ、生活防衛の動きも一層強まる可能性が高いことから、家庭用を中心とした飲用需要は厳しい環境が続くと見込まれる。今後訪れる不需要期に向けて牛乳・乳製品の需要拡大・底上げが課題であり、業界一体となった取り組みが強く求められる。

【生乳生産量】※増減率は、日均量で算出。

(1)7月の生乳生産量は、全国645千トン(前年同月比101.0%)、北海道372千トン(同101.5%)、都府県274千トン(同100.3%)。

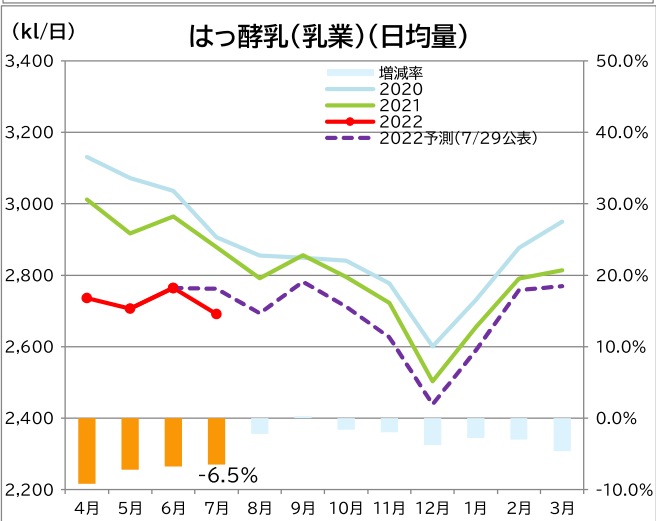
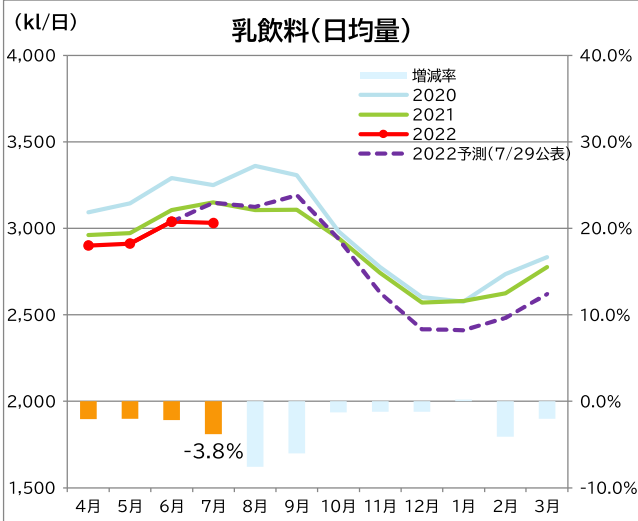
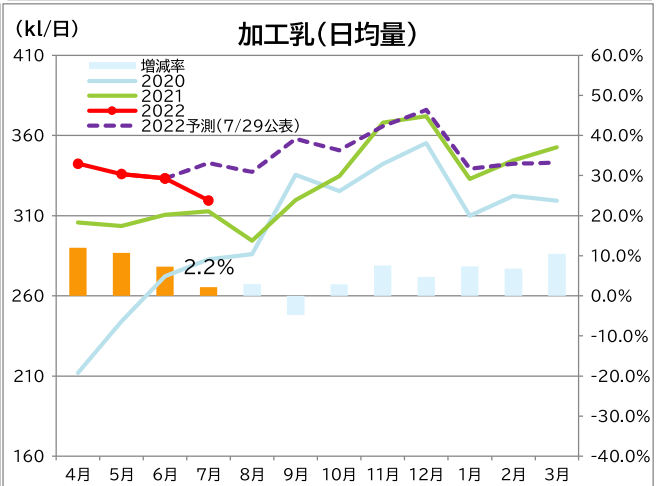
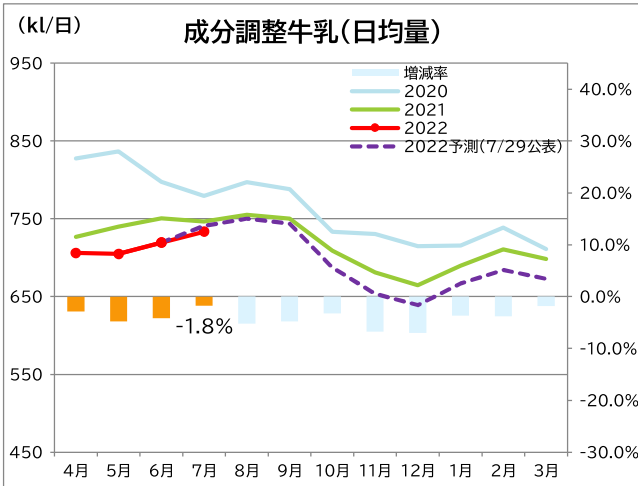
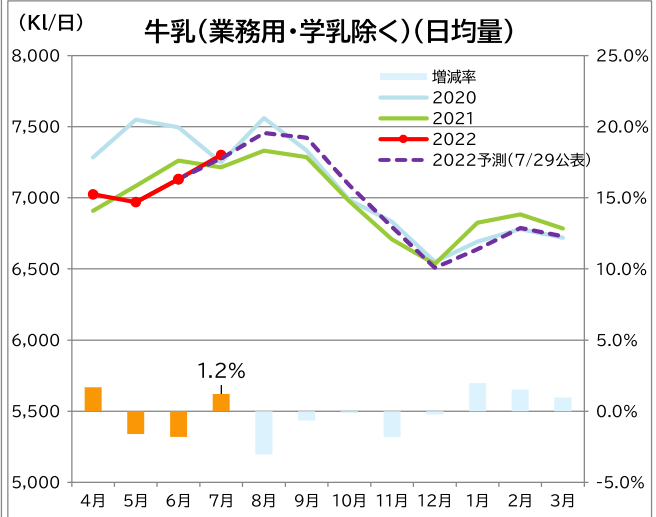
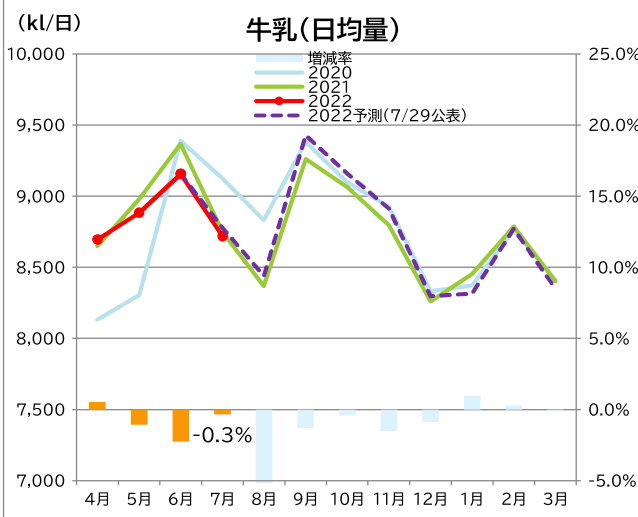
(2)直近の指定団体速報値は8月中旬で全国が同98.2%、都府県(沖縄除く)が同96.9%、北海道は8月下旬で同98.7%となっている。

(3)Jミルク予測値(全国646千トン、北海道375千トン、都府県271千トン)との比較では北海道はやや下振れ、都府県はやや上振れ、全国は予測値並みとなった。



【牛乳等生産量】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)7月の牛乳等生産量は、牛乳270千kl(前年同月比99.7%)、成分調整牛乳23千kl(同98.2%)、加工乳10千kl(同102.2%)、乳飲料94千kl(同96.2%)となり、牛乳類合計では397千kl(同98.8%)となった。
 (2)「牛乳」のうち、「業務用以外」は、同101.2%、「業務用」は同89.1%、「学乳」は95.7%。
 (3)はっ酵乳(乳業)は83千kl(同93.5%)と前年を下回って推移している。
 また、非乳業実績(6月)についても、同97.7%と前年を下回った。

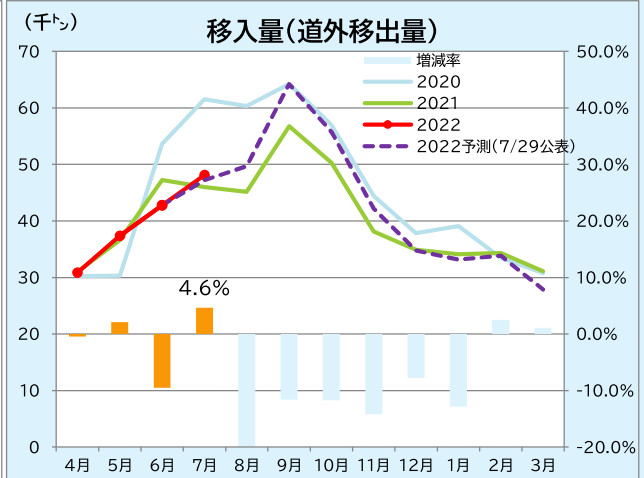
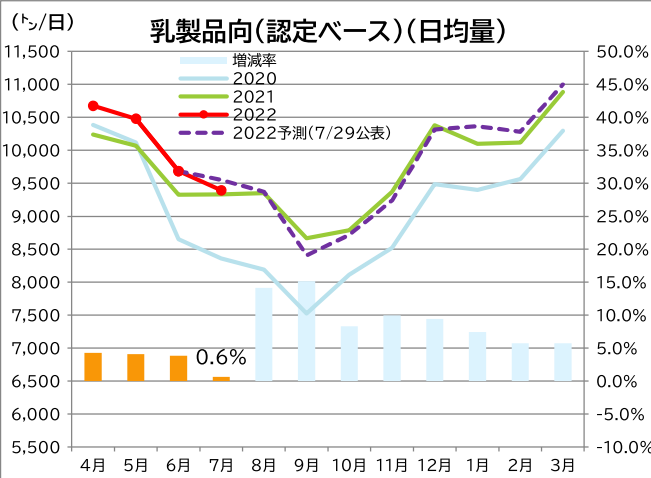
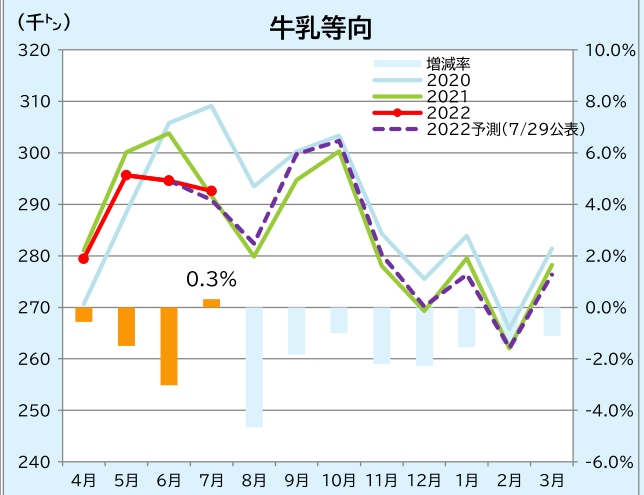
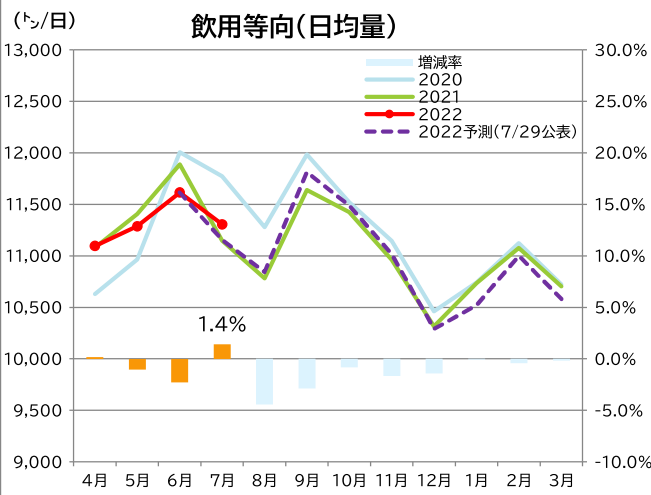
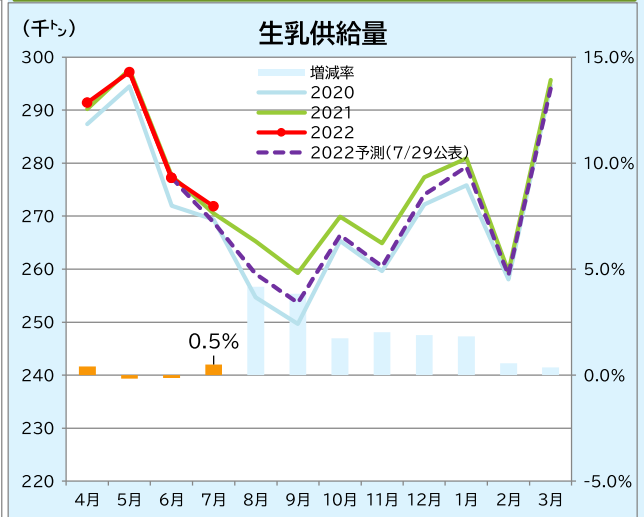
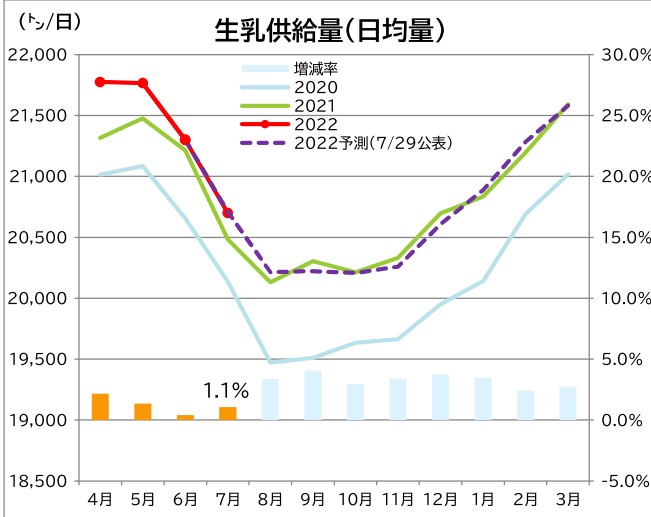


【用途別処理量(全国)】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)7月の生乳供給量は642千ト(前年同月比101.1%)、飲用等向350千ト(同101.4%)、乳製品向(認定ベース)291千ト(同100.6%)。
 (2)生乳供給量は引き続き前年を上回っているが、飲用等向が3か月振りに前年を上回った結果、乳製品向の前年伸び率が縮小した。
 (3)予測値との比較では、生乳供給量(予測値:642千ト)は予測並み、飲用等向(予測値:346千ト)は上振れし、結果乳製品向(予測値:296千ト)は下振れとなった。

【都府県の生乳需給】

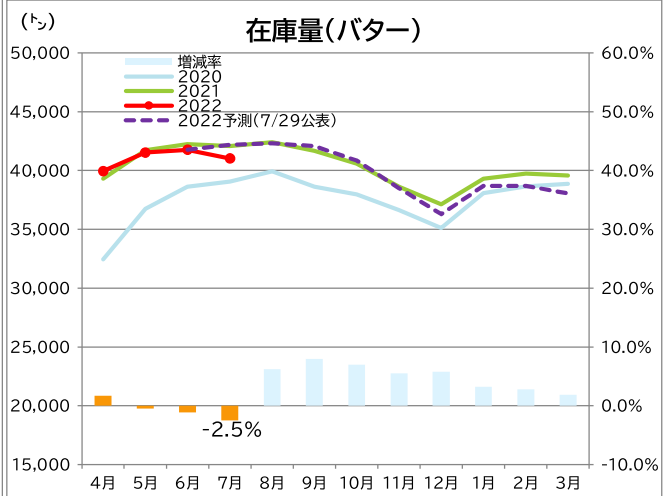
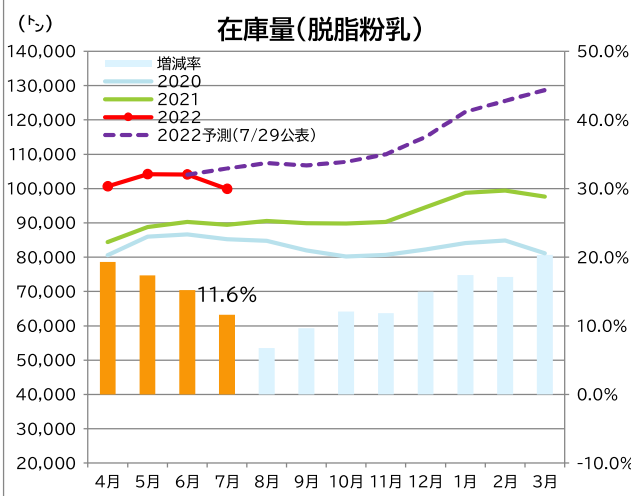
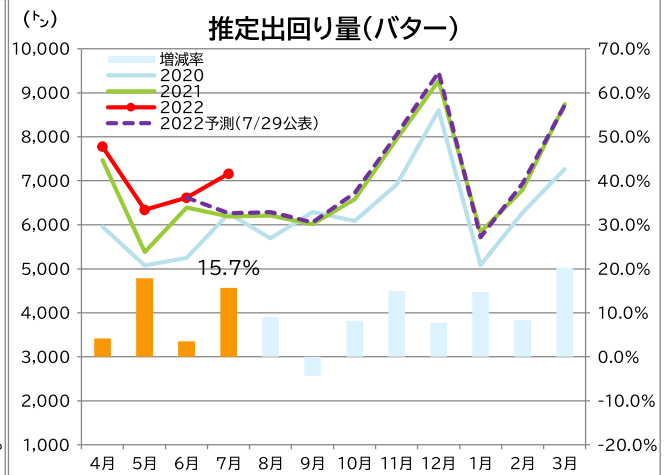
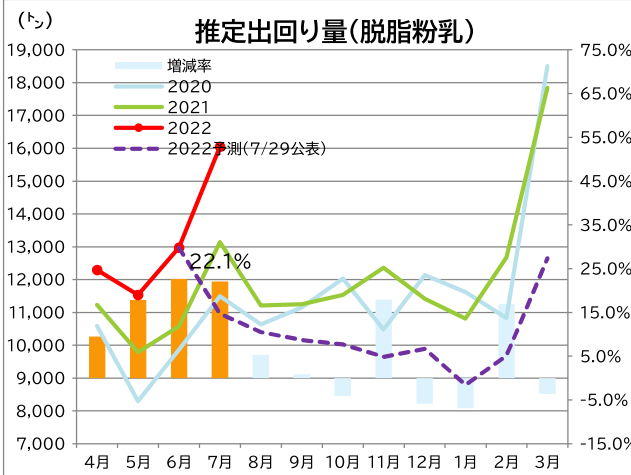
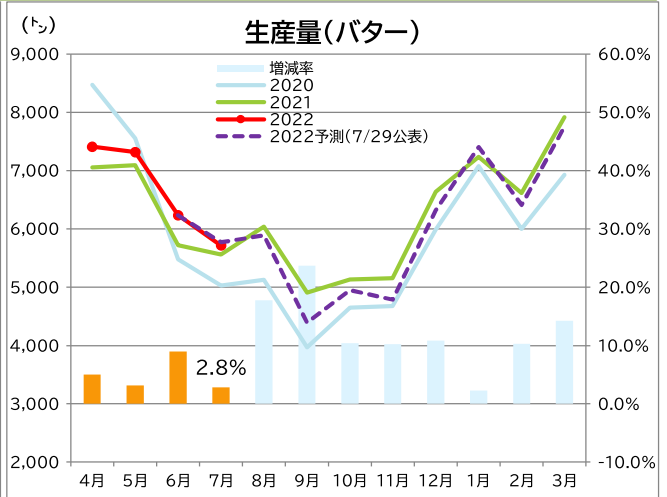
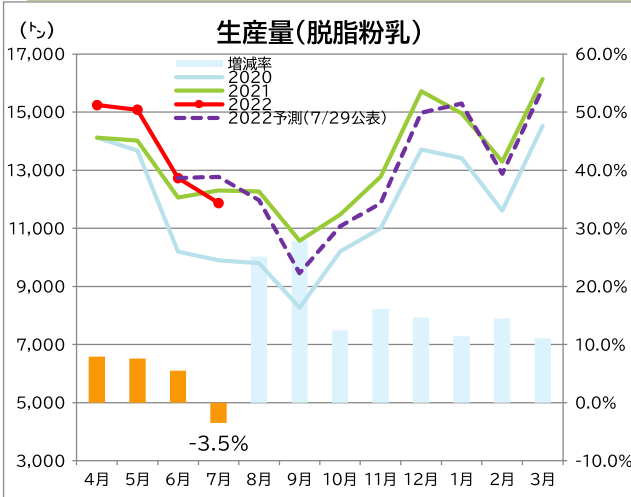
(1)7月は、生乳供給量272千ト(前年同月比100.5%)、牛乳等向293千ト(同100.3%)。
 (2)北海道からの移入量について、48.1千ト(同104.6%)と前年を上回った。
 (3)予測値との比較では、生乳供給量(予測値:269千ト)は上振れ、牛乳等向(予測値:291千ト)は上振れ、北海道からの移入量は(予測値:47.2千ト)はやや上振れとなった。



【脱脂粉乳・バターの需給】

(1)脱脂粉乳について、7月の生産量は11.9千ト(前年同月比96.5%)、推定出回り量は16.1千ト(同122.1%)。結果、在庫量は99.9千ト(同111.6%)。生産量よりも出回り量が上回ったことから、在庫は前月よりも減少した。生産量は今年初めて前年を下回った。予測値との比較では、予測値(105.9千ト)よりも実績は下振れた。
 ※推定出回り量には全国協調の在庫対策と北海道(ホクレン)の独自対策による国産脱脂粉乳への置換分が含まれている。

(2)バターについて、7月の生産量は5.7千ト(同102.8%)、推定出回り量は7.2千ト(同115.7%)。結果、在庫量は41.0千ト(同97.5%)。生産量よりも出回り量が上回っており、国家貿易による輸入売渡分を考慮しても在庫は前月よりもわずかに減少した。予測値との比較では、予測値(42.2千ト)よりも実績は下振れた。



【牛乳類の販売速報(推定値):インテージSRI+】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績
(1)8月の動向(表①参照)

・販売個数は、牛乳:前年同月比97.0%、成分調整牛乳:同94.2%、加工乳:同95.2%、乳飲料:同95.0%。
牛乳類では同96.5%

【参考】2020年度比…牛乳:92.7%、成分調整牛乳:92.5%、加工乳:92.5%、乳飲料:83.8%(牛乳類トータル:91.3%)

・販売単価は、牛乳:190.6円、成分調整牛乳:174.8円、加工乳:190.3円、乳飲料:149.9円。

(2)直近の週次動向(表②・グラフ参照)

・直近(8/29週)の販売個数は、牛乳:前年同期比97.9%、成分調整牛乳:同95.5%、加工乳:同96.3%、乳飲料:同96.2%。
牛乳類トータルでは同97.5%

【参考】2020年度比…牛乳:92.7%、成分調整牛乳:91.4%、加工乳:88.9%、乳飲料:81.7%(牛乳類トータル:90.8%)

【参考】2019年度比(コロナ禍前)…牛乳:98.5%

・販売単価は、牛乳:190.4円、成分調整牛乳:174.2円、加工乳:190.1円、乳飲料:150.0円。

※出典 (株)インテージSRI+週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表① 牛乳類の月別販売動向】

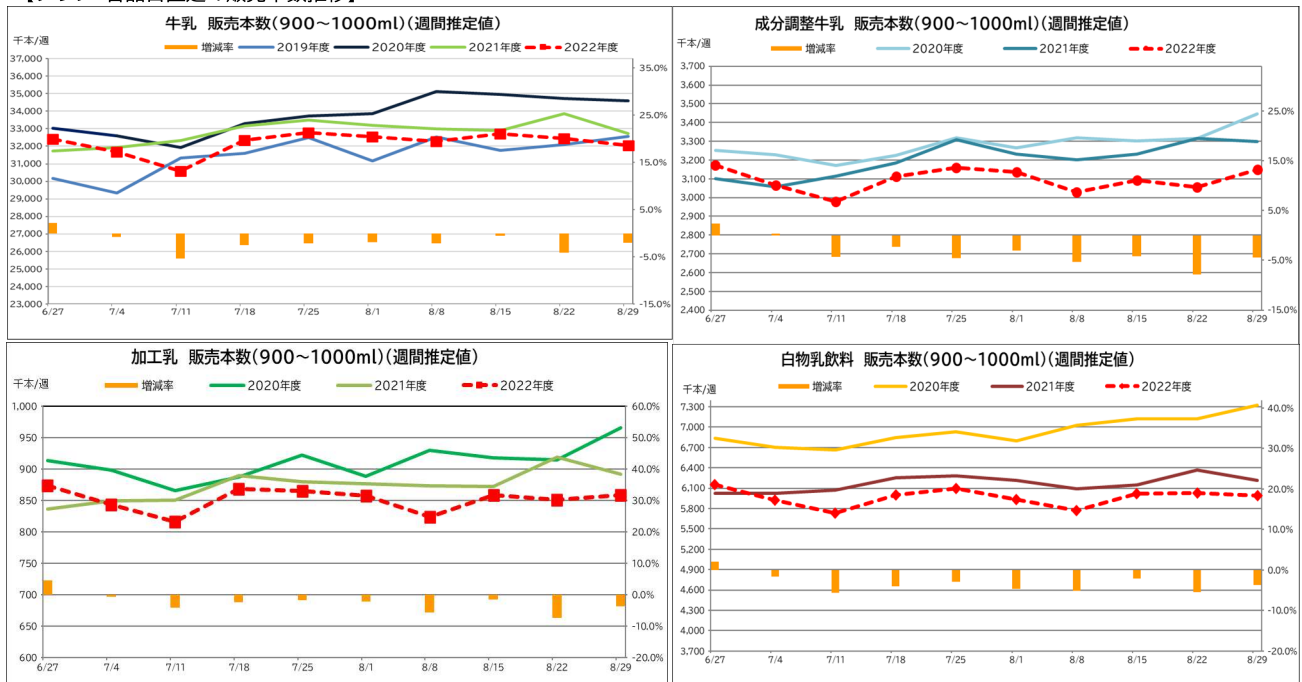
単位:千個、円

| 品目 | 区分 | 2022/3- | 2022/4- | 2022/5- | 2022/6- | 2022/7- | 2022/8- |
|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| | | 販売個数 | 164,151 | 163,794 | 172,087 | 170,992 | 186,323 |
| トータル | 販売個数前年比 | 95.2 | 95.9 | 93.0 | 94.3 | 98.7 | 96.5 |
| | 販売単価 | 182.7 | 182.9 | 182.8 | 182.9 | 182.9 | 183.7 |
| 牛乳 | 販売個数 | 124,883 | 124,418 | 130,782 | 129,838 | 142,239 | 143,389 |
| | 販売個数前年比 | 95.4 | 96.0 | 92.7 | 94.1 | 98.8 | 97.0 |
| 成分調整牛乳 | 販売個数 | 12,596 | 12,656 | 13,149 | 12,977 | 13,756 | 13,637 |
| | 販売個数前年比 | 95.7 | 97.2 | 95.1 | 96.7 | 98.8 | 94.2 |
| 加工乳 | 販売個数 | 3,334 | 3,355 | 3,566 | 3,545 | 3,782 | 3,767 |
| | 販売個数前年比 | 98.3 | 99.1 | 97.2 | 98.5 | 99.4 | 95.2 |
| 乳飲料 | 販売個数 | 23,339 | 23,365 | 24,590 | 24,632 | 26,545 | 26,273 |
| | 販売個数前年比 | 93.3 | 94.3 | 92.6 | 93.4 | 98.0 | 95.0 |
| | 販売単価 | 150.1 | 150.0 | 149.9 | 149.8 | 149.6 | 149.9 |

8月速報値

【表② 牛乳類の販売動向(直近の週次動向)】

| 品目 | 区分 | 6.27- | 7.4- | 7.11- | 7.18- | 7.25- | 8.1- | 8.8- | 8.15- | 8.22- | 8.29- |
|--------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | 販売個数 | 42,618 | 41,519 | 40,121 | 42,317 | 42,911 | 42,471 | 41,902 | 42,674 | 42,379 |
| トータル | 販売個数前年比 | 102.2 | 99.2 | 94.7 | 97.3 | 97.6 | 97.6 | 97.1 | 98.9 | 95.3 | 97.5 |
| | 販売単価 | 182.8 | 182.9 | 183.0 | 183.0 | 183.1 | 183.8 | 184.2 | 183.5 | 183.4 | 183.5 |
| 牛乳 | 販売個数 | 32,421 | 31,683 | 30,594 | 32,332 | 32,795 | 32,546 | 32,274 | 32,700 | 32,450 | 32,062 |
| | 販売個数前年比 | 102.2 | 99.2 | 94.6 | 97.5 | 97.9 | 98.0 | 97.9 | 99.4 | 95.8 | 97.9 |
| 成分調整牛乳 | 販売個数 | 3,174 | 3,066 | 2,980 | 3,112 | 3,158 | 3,136 | 3,030 | 3,094 | 3,054 | 3,150 |
| | 販売個数前年比 | 102.4 | 100.3 | 95.7 | 97.7 | 95.5 | 97.0 | 94.6 | 95.8 | 92.2 | 95.5 |
| 加工乳 | 販売個数 | 874 | 844 | 816 | 869 | 865 | 858 | 824 | 859 | 851 | 859 |
| | 販売個数前年比 | 104.4 | 99.3 | 95.9 | 97.6 | 98.3 | 97.9 | 94.5 | 98.5 | 92.5 | 96.3 |
| 乳飲料 | 販売個数 | 6,149 | 5,927 | 5,730 | 6,004 | 6,093 | 5,931 | 5,773 | 6,021 | 6,025 | 5,987 |
| | 販売個数前年比 | 102.1 | 98.3 | 94.4 | 96.0 | 97.0 | 95.4 | 94.8 | 97.9 | 94.6 | 96.2 |
| | 販売単価 | 149.8 | 149.6 | 149.6 | 149.5 | 149.6 | 150.1 | 150.1 | 149.6 | 149.7 | 150.0 |

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】


【ヨーグルト類の販売速報(推定値):(一社)Jミルク調べ】

(1)直近の週次動向(表③参照)

直近(8/1週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90~250ml):前年同期比100%以上、個食タイプ(70~130ml):同90%以上、大容量タイプ(350~500ml):同90%以上。

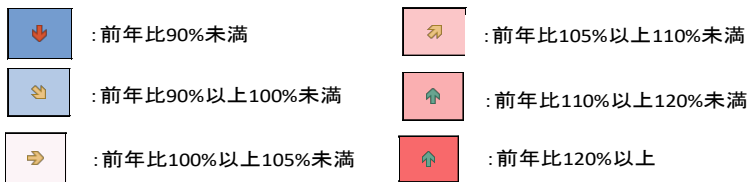
—昨年比ではドリンクタイプは90%以上、個食タイプ90%以上、大容量90%以上となっている。

(2)前週(8/22週)よりもドリンクタイプは減少、個食タイプは前週並み、大容量タイプは微増となった。

【表③ ヨーグルト類の販売動向】

単位:千個

| 品目 | 7.11- | 7.18- | 7.25- | 8.1- | 8.8- | 8.15- | 8.22- | 8.29- |
|---------|-------|-------|-------|------|------|-------|-------|-------|
| ドリンクタイプ | ↘ | ↗ | → | → | → | → | → | → |
| 個食タイプ | ↘ | → | ↘ | → | ↘ | ↘ | ↘ | ↘ |
| 大容量タイプ | ↘ | ↘ | ↘ | ↘ | ↘ | ↘ | ↘ | ↘ |



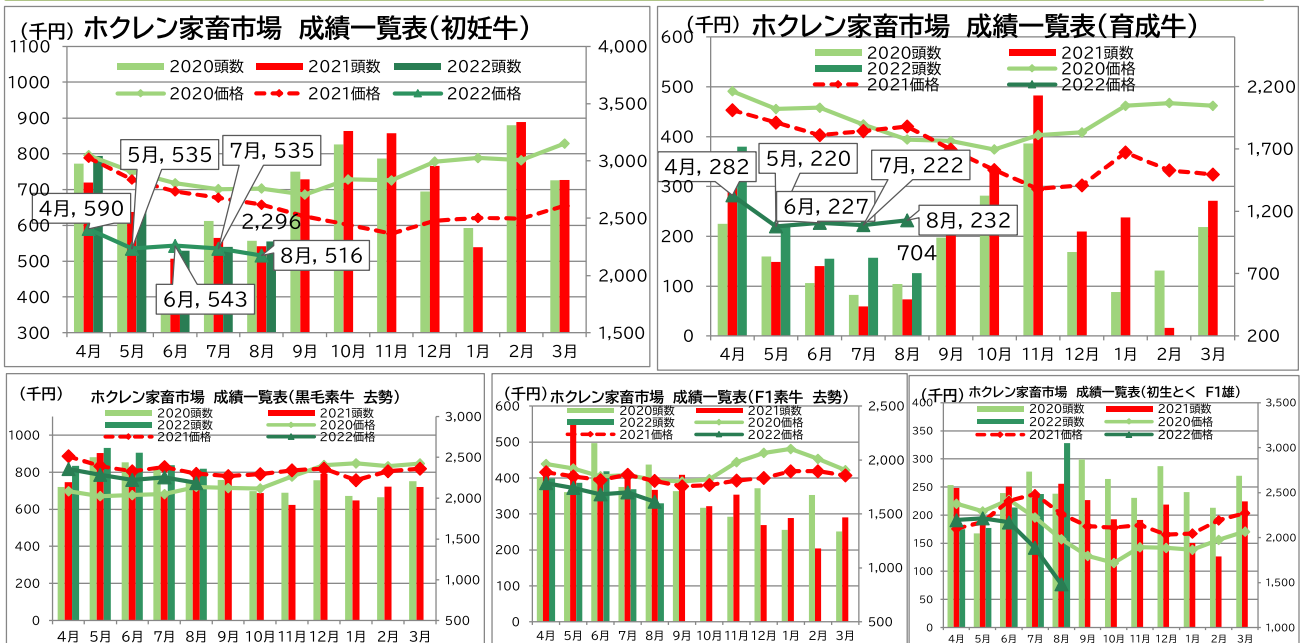
※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

【家畜販売価格動向】

(1)8月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は516千円(前年同期比78.4%)、育成牛価格は232千円(同55.2%)、和牛素牛(去勢)価格は742千円(同93.7%)、F1素牛(去勢)価格は334千円(同85.2%)、F1初生(雄)価格は77千円(同38.2%)。

(2)上場頭数(出回り頭数)は、初妊牛:同101.7%、育成牛:同142.8%、和牛素牛(去勢):同105.2%、F1素牛(去勢):同92.7%、F1初生(雄):同117.4%。

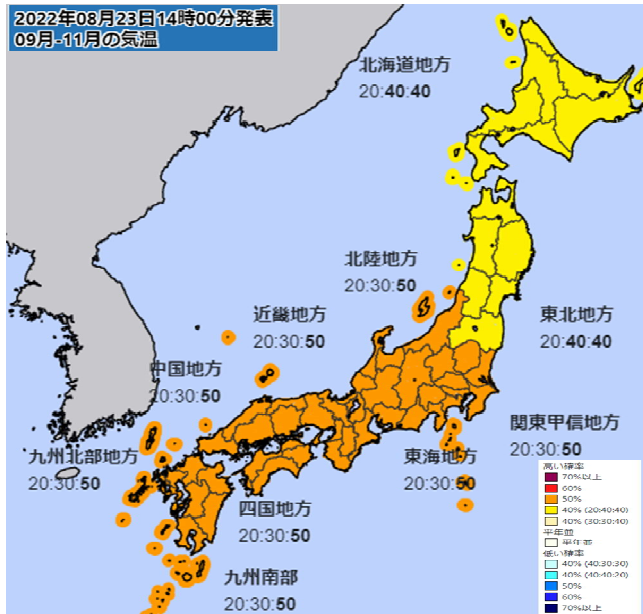
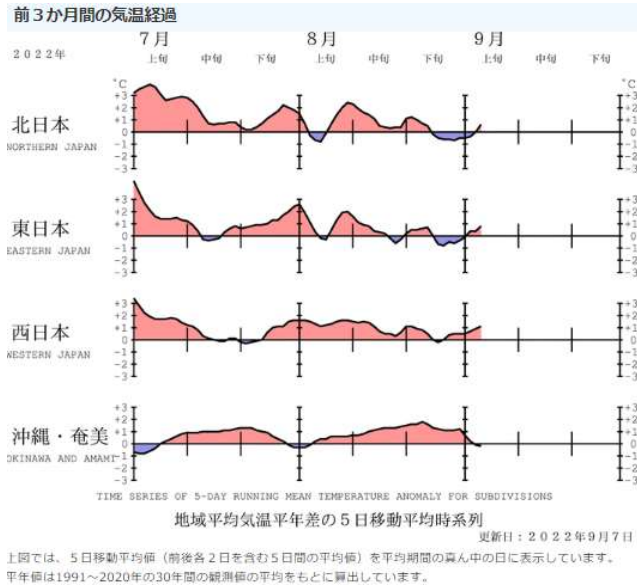
※ホクレン家畜市場集計表 速報値(<https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx>)



【気温の動向】

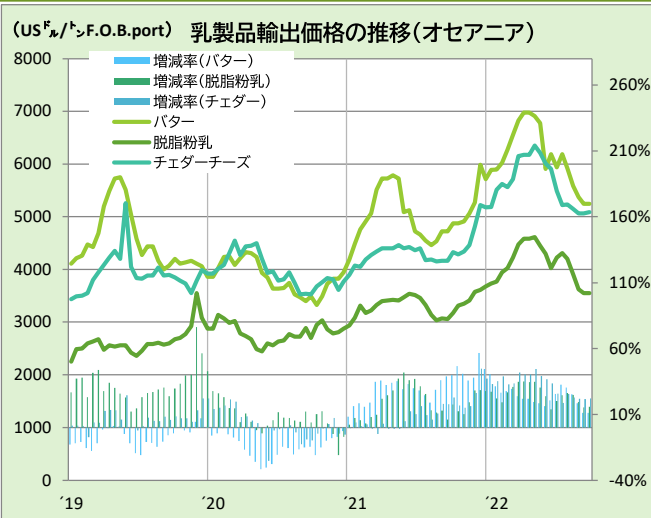
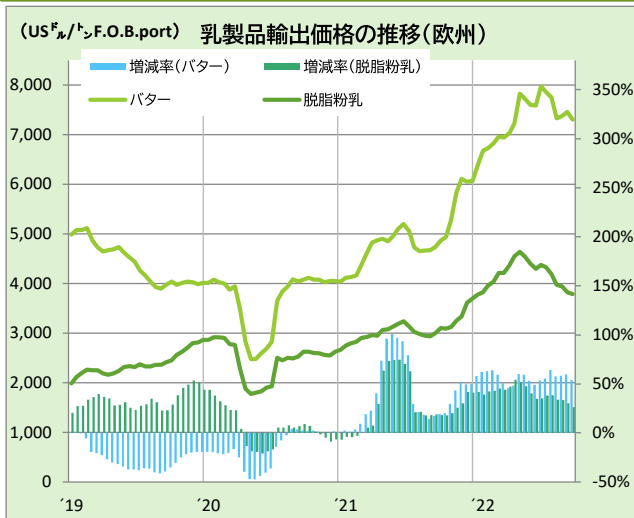
(1)8月の気温変化について、上旬までは平年よりも暑い日が続いたが、お盆明け以降は平年並み～平年以下となった。
 (2)飲用最需要期の9月を含む向こう3か月の気温(9-11月)について、関東以西の消費地を中心に平年より高くなる確率は50%以上と予測されている。※出典:気象庁

※参考資料



【乳製品輸出価格の動向】

(1)直近の乳製品国際相場について(8月下旬)
 ・欧州:脱脂粉乳3,800ドル/ト、バター7,300ドル/ト中心
 ・オセアニア:脱脂粉乳3,550ドル/ト、バター5,250ドル/ト程度、チェダーチーズは5,100ドル/ト中心
 ※出典:米国農務省(USDA)



※「2022年度生乳需要基盤確保事業 独立行政法人農畜産業振興機構 後援」